

## 平成30年8月2日開催教育委員会会議記録

### 1 開会・閉会等について

日 時	平成30年8月2日(木) 午後2時00分
場 所	第1委員会室
開 会	午後2時00分
閉 会	午後4時29分
出席委員	
教 育 長	加 藤 裕 之
委 員	雁 部 隆 治
委 員	阿 部 博 道
委 員	坂 根 慶 子
委 員	淺 松 三 平
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	後 藤 隆 宏
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	宮 本 知 幸
学 務 課 長	西 村 克 己
指 導 室 長	横 山 圭 介
すみだ教育研究所長	石 原 恵 美
地域教育支援課長	石 岡 克 己
ひきふね図書館長	高 村 弘 晃

### 2 議題について

#### (1) 議決事項

- 第1 議案第29号 平成31年度使用中学校「特別の教科道徳」教科用図書採択について
- 第2 議案第30号 平成31年度使用小学校教科用図書採択について
- 第3 議案第31号 特別支援学級用教科用図書採択について

### 3 会議の概要について

**教育長** それでは、教育委員会を開会します。本日の会議録署名人は、阿部委員にお願いします。本日は、議決事項3件を予定しています。まず、日程に先立ち、会議の傍聴の取り扱いについてお伝えします。本日の会議は、傍聴希望が多いと予想されたことから、教育委員会室よりも広いこの第1委員会室を会場とさせていただきました。本委員会の傍聴については、墨田区教育委員会会議傍聴規則第3条第1項の規定により定員が10人とされていますが、本日の会議については、同条第2項の規定により、一般傍聴を40人までとさせていただき、その他に区議会議員及び報道関係者の傍聴も認めることとしましたので、ご承知おきください。

#### 議決事項第1・・・資料P1～2

議案第29号「平成31年度使用中学校「特別の教科 道徳」教科用図書採択について」を上程し、指導室長が資料のとおり説明する。

**教育長** ただいまの説明について、何かご質疑、ご意見はありますか。それでは、審議に入る前に、これまでの経過等について確認させていただきます。墨田区立小中学校教科用図書採択事務取扱要綱に基づき、5月1日から6月8日までの間、教科用図書調査委員会を設けて専門的な調査を行うとともに、6月5日から7月3日までの間、ひきふね図書館内に教科用図書を展示し、ご来場された区民の方々からもご意見をいただきました。5月17日から6月11日までの間には、学校の教員向けに教科用図書の展示会場を複数設けて展示し、学校ごとの意見を集約し、調査報告を受け取りました。また、6月13日に、教科用図書採択検討委員会を立ち上げ、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査・研究報告、区民の方々からの意見等を参考として、6月29日までの間、計3回の教科用図書採択検討委員会を開催し、全ての教科用図書について検討を行いました。そして、7月5日に、教科用図書採択検討委員会から報告書を受け取りました。さらに、教育委員の皆さんには、7月31日までの間、全ての教科用図書を実際に手にして、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民の方からの意見、教科用図書採択検討委員会からの報告書等にも目を通していただきながら、教科用図書の細部にわたり検討していただいたところです。なお、本日も会場に教科用図書を用意しておりますので、必要に応じてご確認いただきながら審議をお願いします。

ここで、学習指導要領に定める「特別の教科 道徳」の目標等について指導室長の説明の後、審議に入ります。それでは、指導室長、説明してください。

**指導室長** 「特別の教科 道徳」の目標は「（前略）よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」とあり、学校教育全体で行う道徳教育の目標と同様、道徳性を養うことが目標であることが明確にされました。次に、学習指導要領改訂における主なポイントを2点申し上げます。第一に、「考え、議論する道徳」です。生徒が自ら考え、主体的に授業に参加できるよう、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を適切に取り入れる等、指導法を工夫することが「学習指導要領」で求められています。第二に、評価についてです。「学習指導要領」では、「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」とされております。「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」へと教科化されることに伴い、今後は、通知表や指導要録に、生徒の学習状況や道徳性について、生徒がいかに成長したか積極的に認め、励ます、個人内評価を記述により記載する必要があります。このような改訂のポイントも踏まえ、採択をよろしくお願いいたします。

**教育長** それでは、ご意見を伺ってまいります。委員の皆様、よいと思われた教科書を、2社ずつ順位をつけてお願いします。まず、雁部委員からお願いします。

**雁部委員** 私は、第1位の教科書としては教育出版、第2位が東京書籍です。教科書で大事なことは、まず扱いやすい、それからわかりやすいことが一番だと思います。全ての教科書をパラパラとめくっていただくとわかると思うのですが、一番めくりやすいのは教育出版です。まず、扱いやすいということが一つ。それから、目次のところで、道徳の学習の仕方において、各学年単位で目標が明確になっているということ。それから、3年間を通していじめ問題を体系的に取り上げていること。各学年ともロールプレイ教材があって、コミュニケーションの大切さを取り上げている。全体的に見ますと、シンプルな構成で身近な課題を取り上げているところが多いように思いました。若い先生方に扱いやすいのではないかと思います。ただ、難点が、学びの道しるべの発問で、少し多くて内容がわかりにくいように思います。単元の時間内でこの三つの発問全て網羅できるかどうか、時間的な不安もあります。もう一つは、文献の著作者、つまり誰の文

かわからないおそれがあります。情報公開という点から、まず誰が書いたのかを明確に  
してもらいたかったなというところは難点です。第2位の東京書籍ですが、こちらも目  
次で1年間の目標、各単元で学ぶことのテーマがはっきりしている。それと、墨田区の  
主要な教育課題にも、いじめの防止や人権尊重の精神を育てるといった項目があります。  
それに沿って命の大切さを題材にしているところが多い点がよいと思います。モラルフ  
ィードアクションを各学年2か所設けておりまして、体系的な学習ができるようになって  
います。発問は2問で、生徒に考えさせる内容で、非常にわかりやすいと思いました。  
短所が、教科書自体が少し大き目なところ。紙の質はよいのですが、少し厚くて扱  
いづらいというところがやや難点かなと思いました。

**教育長** では、阿部委員、お願いします。

**阿部委員** 私は、8社の教科書を拝見して、1番目には東京書籍を推薦したいと思いま  
す。2番目は学研教育みらいの教科書を推したいと思います。東京書籍につきましては、  
結論を申し上げると、非常にオーソドックスでバランスがよく使いやすいという評価を  
いたしました。道徳が教科として1限50分という限られた中で、ある程度時間のまと  
めと言いましょか、その学んだことを子どもたちの心に刻む上では、余り難しい、あ  
るいは取り組みにくいような課題や発問があると、恐らく消化不良を起こしてしまう危  
険があるので、なるべくわかりやすく、子どもたちも興味を持つような課題でなければ  
ならないと思います。そういう意味では、東京書籍は比較的簡明な内容ですし、発問も  
雁部委員がおっしゃったように、大体2問ないし場合によっては3問ぐらいになってい  
るということ。それから、表題があり、そこに副題がついておりまして、およその学ば  
うとしている方向性がわかる。ほかの教科書の中には、かなり前の段階で発問をして、  
方向づけをするような教科書も幾つかありましたが、東京書籍の場合には、ある程度  
の大まかな方向性をつけながら考えさせるという面では、方向づけをしながら考えさせる  
のにちょうどよいバランスかなと思いました。それから、私の意見としましては、中学  
生ですので、ちょうど思春期を迎えて先生から考え方や判断についていろいろ学ぶと同  
時に、やはり先生の考え方とか生き方とぶつかるようなことも出てくるだろうと思いま  
す。ですので、授業における創意とか工夫あるいは力量が問われる科目だろうと思いま  
す。そういう意味では、教科書が方向づけとかヒントみたいなものが余り多くあるより  
は、教員がある程度柔軟性を踏まえて、使いやすいごくオーソドックスな方がよいと、  
私が実際に道徳の授業を何回か拝見した上での印象ですので、総合的に東京書籍がよい

だろうと思いました。1点だけ、東京書籍は、文章の作者の名前の表示がされているのですが、出典をもう少し詳しく書いていただければ、子どもたちが興味を持てば、それから更にその本に当たるというようなこともできるので、これは授業で補っていただくなくてはならないなと思いました。あともう一点、学研教育みらいについては、教材としては非常に中身が濃くて、いろいろ考えさせるアイデアや発展性がある内容であり、今申し上げたように、興味がある子どもとか、あるいはある程度いろいろ知識があったりする子どもには非常に興味深い内容ですが、一般的に考えると少々難しいかなという印象を持ちました。ただし、内容は非常に魅力的なので2番目に推した次第です。

**教育長** 続きまして、坂根委員、お願いします。

**坂根委員** 結論から先に申し上げますが、私は、第1に学研教育みらいを推薦したいと思います。次は、第2というより第3ぐらいに光村を推したいと思います。なぜかと申しますと、唯一、学研教育みらいは引き算型の教科書ではないかと考えます。引き算型というのは、余分なものをそぎ落としていくこと。教員は、どうしても足し算型になる傾向があります。これは私も含めてですが、話し過ぎ、見せ過ぎですね。それよりも聞くというところを中心に考えていきたい。構成の面で言いますと、これは生徒にとっても簡潔で見やすい。学習指導要領では、道徳の目的として4領域で22項目のことが書いてあるのですが、ある教科書には、見開きで全部それが書いてあって、イラストも書いてあったり、写真があったりする。そうしますとポイントがわからないですが、これは簡潔で、生徒が何を学ぶかということがはっきりわかります。最初の2ページ、新しい扉を、考えを深める四つのタイトル、教材と出会う、教材をもとに考える、話し合い磨き合う、生き方についての考えを深めるとなっています。出会うというのはあまりありませんでした。考える、これはあります。話し合い、そして磨き合う、この対話型、対話をするということは、ただ話し合うだけではなくて、磨くという、そのポイントがなかなかよいと考えます。それから、構成で、教材の後の発問が1問、私が調べた中では、2問あるところが一つでした。発問が少ないのです。発問が少ないということは、生徒の自由な発想や意見を引き出しやすい。逆に、発問が多いということは、教師の誘導になりがちではないかと懸念しております。また、関連した教材が、主教材とそれからクローズアップということで、なかなか魅力的な組み合わせが多くございます。例えば2年のブラックジャックを用いたもの、92ページ、これは安楽死の問題と手術をするかという重いテーマを、皆さんご存じの漫画を使って導入している。その後

ーベル賞の山中伸弥さんのiPS細胞のことが書いてあり、最終的にiPS細胞の実用化についてと、かなり自由にやったものが出ています。また、3年の26、これは4年生版、命のメッセージ。生と死を考える授業に取り組んでいる、実際に渡辺さんという方の経験が書いてあります。こういう問題はなかなか取り上げにくいので、実際の講演などを扱ったのは魅力的に感じます。次に、教材について申し上げますが、私が独自にまとめた結果ですが、学校を舞台にした、いわゆる学園ものが多くありません。多くないところは、教育出版と学研教育みらいです。学園ものは、生徒にとってはわかりやすいですが、逆に言うと、作り物のようなイメージも多くなるのではないかと。そして、5社以上で使われていた共通の教材、これはもともと文部科学省の資料などで使われていたものです。ですから、長く使われていたものが14あるのですが、学校図書と廣済堂あかつきは13使われています。学研教育みらいは10です。教育出版は7です。いろいろありますが、そこの兼ね合いも考えまして、なるべく私は新しい時流に合ったものを教材として用いることに意義を見出しております。編集委員の文章もあるのですが、編集委員の文章がなかなか優れていることがあります。それから、出典が一番はつきりしています。もちろん学术论文ほどに出典をはつきりさせる必要はないかもしれませんが、なぜ出典のことをいうかと言いますと、先ほど雁部委員も阿部委員もおっしゃっていますが、元の文を探すということで、新たな読書につなげることができます。それから、情報モラル、これも重要な視点です。現代のいじめには、この情報モラル、つまりSNSを使ったいじめがあります。教材でどこの社でも取り上げていますが、情報を精査するには出典もはつきりしていることが重要です。私の個人的な例を申し上げますと、今、大学生を教えています、コピー・アンド・ペーストがあたりまえな状態なので、その辺を中学生の時からきちんとしていく必要があるのではないかと思います。問題点は、A4判で他の教科書より縦長なことですが、重さとしてはそれほど重くありません。東京書籍とほとんど同じ重さです。ただ、A4ということは、今、文書の国際標準というのがA4です。私たちの使っている資料もA4です。そういう意味では、A4に慣れることは不利ではないと考えます。もう一点、発問が少ないということは、教員によっては負担を感じる人がいるかもしれません。しかし、授業を参観して感じるのは、ベテランの教員だから良い授業をしているとは限らない。若い教員だから新しい発想で、新しい授業を始めようという考え方もできます。そういう意味で、この学研教育みらいは薦められるのではないかと思います。教材選択のことについてももう少し述

べますが、本区の状況は、例えば子どもたちは礼儀や思いやりは本当に身につけている、そういう傾向がありまして、私はすばらしいことだと思います。それに対して、時流に合ったもの、国際協力や未来へのこととか、そういうことに対してどちらかというところ余り積極的になれないのではないかという感じも見受けられます。そういう意味で、例えば実際に横須賀高校の3年生のような、実際例があるということは非常に刺激になるのではないかと考えております。これが私の推薦の理由です。もう一社の光村図書に關しましては、教科書としては地味なもので、子どもがこれで喜ぶかどうかはわかりませんが、最初のところで対話で広がる道徳の時間、他者との対話というのがあります。最初の4ページです。次のページに、自分の対話というのがあります。新学習指導要領で主体的・対話的で深い学びという中心的な考え方ですが、対話というと常に他人との会話で、自分との対話、自己との対話について書いてあるものは、これが初めてです。考えるということは、自己と対話することが基本になると思いますので、その点を評価したいと思います。それから、ほかの社では見られない公教育という分野が、最後の巻末224にあります。例えば、遵法精神、公僕心のところで、仏の銀蔵、雨の日の昇降口、これは同じような教材で、傘の下というのがほかのところでもあります。それから銀色のシャープペンシル。公教育をかなり上げているのは、この光村の特徴だと思います。2年で民主主義と多数決の近くて遠い関係というのがございます。54ページです。いつも話題になることですが、かなりきちんと扱われています。その後59ページ、砂漠でサバイバルというのがございます。これは私も同じような題材で何回か使ったことがあります。社会教育でもよく使われるものですが、社会教育で私が扱ったのは、NASA、月面着陸というときです。危機的状況になった時、どういう持ち物を先に選ぶかということです。グループで話し合うことによって精度が上がって、もっとよりよくできる、こういうものがあるということで勧めます。ただし、私はこの学びのテーマとか考える視点とか見方を考えてこれが多過ぎる気がします。ですから、発問が逆に多過ぎるのがこの光村の欠点だと思います。長くなりましたが、以上です。

**教育長** 続きまして、浅松委員、お願いします。

**浅松委員** 私は、第1に東京書籍の教科書を選びました。まず、私は道徳の教科化のきっかけにもなりませないじめについて、この教科書はとても丁寧に扱っていて、教材の内容も豊かで充実していると思います。具体的には、複数の教材を組み合わせたユニット構成になっておりますが、これは確かに学習が深まると思います。すなわち、先ほど

指導室長からも説明がありましたが、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、信条、実践意欲等の態度を育てるという観点をきちんと踏まえた工夫がなされていると思います。各学年とも漫画やイラストをかなりたくさん使っていますけれども、中学生の発達的特質というか発達段階に応じてインパクトのある興味深いストーリーで、登場人物の心情や考えに関与させやすい良い教材だと思います。例えば、2年生ですが266ページに、いじめのない世界、(2)あの子のランドセルという教材があります。これは、主人公の心の葛藤を通して道徳的判断力、心情が育っていく過程が理解しやすく、人としてのより良い生き方を考えさせることができる優れた教材だと思います。また、その前に掲載されている、「いじめているきみへ」という、春名風花さんのメッセージですが、これは非常に新鮮で、どんな人間も、親も含め多くの周囲の人々にどれだけ愛され大切に育てられてきたかということを考えれば、いじめなどとんでもないということが中学生にとって非常にわかりやすく、非常に説得力のある、心揺さぶる教材だと思います。さらに、3年生の32ページに、いじめから目をそむけないでという部分があるのですが、いじめ防止に向けた行動指針を検討するための中学生サミットの資料、これが私の目を引きました。そこには、同じ中学生の意見の掲載がありますが、さまざまな視点から、生徒が問題意識を持って多様な感じ方や考え方が引き出され、活発な話し合い活動に生かせる好教材だと思います。いじめから離れますけれども、2点目は、この会社は、教材冒頭の主題があって、それを踏まえて学習に入るので、考え、議論する方向性がぶれずに、教材末の「考えてみよう」の発問につながっています。どの教材も、基本2問にまとめられていて、中心発問と、自分事とする発問のつながりが適切かつ簡潔だと思います。最後に、巻末の「自分の学びを振り返ろう」は、自分の成長を実感し、学ぶ意欲を高める、生徒の学習活動の一つと考えます。個々の生徒の学習状況や道徳性に関わる成長を把握することで、教員の行う評価活動という視点ではなくて他教科や、それから他の領域、特別活動、総合的な学習の時間等との関連で指導計画の見直し等を図る大事な授業改善に生かすことができるのではないか、そのための有効な資料として捉えることができます。ぜひ、先生方には、子どもの学習状況を通して良さや課題を見取り、質の高い道徳科の授業を目指してほしいと思います。次に、私が2番目に選んだのは教育出版です。まず、この教科書の大切にしているところは、各学年の担当の2ページから3ページをご覧いただくとわかりますが、道徳科の指導について各学年の基本方針が明



確に示されています。そして、学年進行で発達段階、他教科との関連を考慮して3学年を見通した重点的な指導や内容項目の関連を密にした指導を意識した教科書だと思います。具体的には、1年生では、主として自分自身に関することを扱った教材が他学年に比べて多く、参考のために1年は8教材、2年は7教材、3年は5教材ですけれども、2・3年生で主として集団や社会との関わりについて扱った教材が多くなって、最後に3年の最終学年では、主として生命や自然、崇高なものとの関わりについて扱った教材が最も多いです。特に3年では地域教材を扱っています。教材末尾の学びの道しるべは、3問の設問が中心で、教材理解を問う発問、自我涵養を問う発問、道徳的価値を問う発問と続いています。教員による発問というのは、考えや話し合いを深める重要な鍵になるわけですから、そういう意味では、初めて教壇に立つ新規採用あるいは経験の浅い若手教員にとってはわかりやすく、授業デザインを描きやすいと思います。先ほど東京書籍でも申し上げましたいじめ教材は決して多くはないのですが、身近な場面で起こりそうな題材が多いようです。そのほか、現代的な課題、それから情報問題等、全体的にバランスのとれた教材構成だと思います。ページ巻末の「道徳の学びを記録しよう」。これは1、3年生が174ページ、2年生が176ページに当たりますけれども、これは学習の振り返りとして活用するのであれば、もう少し工夫した方がまとめやすいのかなと思います。以上です。

**教育長** ありがとうございます。では、私からですが、第1順位が東京書籍、そして第2が教育出版です。今みなさんがおっしゃったことと重複する点がありますが、特にここで特徴的だなと思ったのが、東京書籍のいじめで、例えば1年生の目次を見ていただきますと、いじめについて勇気を、5、6。それが1年から3年までですけれども、いじめについて深く考えられる特徴的なものだなと思います。ほかの出版社でも、例えば日本文教出版もかなりユニットで固まっていますが、日文の方は2分冊になっているので、問題が多いかなと思いました。東京書籍については、ほとんどが他の委員の方と同じなので他は割愛させていただきます。それからもう一つが、発問が、先ほど浅松委員が言われたように、2問構成であって、まず中心的発問でこの文書に沿った考え方、それから自分に置き換えた時どうかという構成になっているので、非常に考えさせます。ただ、授業時間の中で、これ以上発問が多いと議論が深まっていけないのではという懸念があり、2問構成が一番よいのかなと考えております。それから、先ほど阿部委員がおっしゃったオーソドックスでバランスがよいということ、私も同じ意見です。それと

同じような形で教育出版、バランスよく構成されていますが、設問が3問です。3問だと授業の中で深めるのは難しいのではないかと。教科書会社としては途中を飛ばすと意味がなく、3問きちんとやることで学習効果が上がると考えていると思いますので、そうすると、先ほど申し上げましたように、東京書籍よりも時間内に議論が深まらないということで2順位となっています。内容的にはほとんど変わらないというのが私の判断です。ではまとめますと、東京書籍が阿部委員、浅松委員と私が1順位です。雁部委員が2順位です。教育出版が、雁部委員が1順位、そして浅松委員と私が2順位になります。光村図書につきましては、坂根委員が2順位です。学研教育みらいにつきましては、坂根委員が1順位で、阿部委員が2順位ということでしょうか。

(「はい」の声あり)

**教育長** では、意見が分かれましたので、今の各委員の方のご意見を聞きながら、更に議論を深めていきたいと思えます。今度は順不同でいきますので、意見がある方はお願いいたします。

**坂根委員** 先ほど、皆さんのおっしゃることを伺いまして、なるほどと思うこともあります。それと、学研教育みらいは発問が確かに少ないですが、学研教育みらいの1と2を比べていただけますか。1の2ページ、2の2ページ。考えを深める四つのポイント、1、2、3、4。2になりますと、2のところ、1、黄色く塗られて囲みになっているところがあります。問題というのは何だろうか、今話し合うテーマはこれだ。2のところ、教材をもとに考えるで、何々はどんな気持ちや考えなのか、何々とは何だろう、それはなぜだろう、自分だったらどうするだろう、自分がそのことについてどう考えるということがあります。これを考えると、先ほど浅松委員もおっしゃったことですが、ほとんどはこれに準じた発問になっているのです。ですから、別に教科書に発問がなくても、生徒自身がこの発問をもとにできるように考えています。逆に、これを自分で深く考えるためには、このような形が適当ではないかと考えます。先ほどの東京書籍では、最初のところを見ながらだとわかりやすいと思えますが、先ほどお話になった、いじめの少ない世界へというので、いじめに当たるのはどれだろう、いじめのない世界へ、傍観者でよいのか、二つの方法。主題があり、教材があり、最後に発問です。確かにこれは非常にわかりやすいと思えます。ですが一方、先ほど私が申し上げたように、非常に教師の誘導が関わるのではないかと考えます。それが私のつけ加える点です。

**教育長** 浅松委員、今の坂根委員のお話で何かあれば。

**浅松委員** そうですね、発問のことも触れましたが、やはり限られた50分という時間で全て道徳の価値、4項目を含めて教え切るということではないですし、実際には、国語、社会も含めて各教科、総合的な学習の時間、特にいじめ等は私も経験ありますが、それから特別活動の学級指導の時間などで取り上げる。そういう中で、坂根委員の答えとは外れるかもしれませんが、道徳の教科書をどのように扱っていくかが分かれ目だと思います。8社とも全部読ませていただきましたが、それぞれ一長一短と言うとおかしいですが、それぞれの会社の心証に基づいてアピールしておりますので、そういった中で、実際現場で扱う教員、そして授業を受ける中学生の皆さんが、総合的に見てどういう教科書が使いやすいのか、指導しやすいのかというところで私は先ほど意見を申し上げました。なので、本当にいじめの問題というのは大きいですが、いまだ解決できない中で、道徳の時間だけでは解決できません。足りないところは他の教科や、特別活動の学級の時間、集会の時間で補充し、発展させることが大事だと思っています。すみません、答えになっていませんが。

**阿部委員** 私も学研教育みらいの本は、とても中身が濃いと思っています。学研教育みらいの本の特色は、表題が一つあって、発問が一つとシンプルです。ですので、子どもたちに考えさせるという意図はよくわかります。ただし、それと東京書籍を比べた場合に、東京書籍は大きな題目があって副題がついています。少し範囲を具体的に示すところで、若干、子どもたちにとってはとっつきやすいというのが一つ。それから、教育出版の場合は、更に表題の下にいろいろな発問を既にスタートラインに置いている。これを読むと、ある程度答えがリードされるような設問という、予備知識的な問題意識を持って読むような形ではなくて、ここまでいくと余りにもリードし過ぎかなと思います。かといって、学研教育みらいのように何も示さないまま50分の中で果たしてまとまりがつくのかと少し心配していますので、そういう意味で、東京書籍がオーソドックスである程度わかりやすい内容ではないかなということで、実際の授業を想定した場合に学研教育みらいは難しいかなと、そこを懸念して2番目にしたわけです。

**雁部委員** 先ほど教育長もおっしゃっていた日本文教出版、廣済堂あかつき、2分冊になっていますが、基本的にノートというのは自分でつくるものと思っています。それぞれ教科書で勉強したことを自分なりに、自分の世界観でノートを作ることが基本だと思っていますので、ほかの学科もそうですが、2分冊はどうも気になります。ノートは基本的に自分が作るものということで、2冊あるとどう使うのかなという問題も

出てくると思いますので、教科書は1冊にした方がよいのではというのと、もう一つは、坂根委員もおっしゃっていましたが、光村の教科書は、非常に内容も豊富だとは思いますが、挿絵とコンテ、昔ながらの古いものを守っているのだと思いますけれども、今の子どもたちはスマホを普通に扱っており、大変クリアな画面を目の当たりにしていますから、多分この教科書の絵を見たときにあんまりぴんとこないと思います。ですから、これが光村の特色なのでしょうけれども、その辺はもう少し工夫した方がよいかと感じました。

**教育長** 私は、坂根委員がおっしゃったように、指針的なものが書かれているので大丈夫だということももちろんあると思います。ただ、教員が毎回戻って指導をしないと難しいかなというのがあり、それよりは、先ほどお話ししたように、登場人物、作者の立場に立つ、それから自分に置き換えてどうするかという発問がより明確になっていて、なおかつ、2問だと、授業時間中に深まっていくと思います。1問だと、子どもたちだけで話し出してしまうと、なかなか深まっていかないの程度ポイントを決めてわかりやすくすることが必要で、かなり指導力が必要になってくるものではないかなと。そのやり方でももちろん効果はあると思いますが、東京書籍の方が教師にとって使いやすいと思いますので、子どもたちにも効果があるのではないかと思います。

**坂根委員** 浅松委員が、現場での経験が豊富で、私は中学校での経験、小学校での経験ありません。ただ、学校現場を見ていますと、私の一般的な考えとして、教材は何でもよい。何でもよいというのは、教材を教えるのではない、教科書を教えるのではない、教科書で教えるということ。先ほど教育長がおっしゃったように、教師の指導力の問題になると思います。それから、50分35時限という時間数があります。その中で教えられることには限りがあります。私は教育というものは、学校での朗読教育が終わった時点で、道徳というのは終わりではなくて、この目標に書いてあるように、自分なりに道徳性を培っていくのが基本だと思います。それが未来思考だと思います。ただ、その場合に、やはり青少年ですと、自分が接する場面ですね、本とか実際接する場面は本当に狭い世界です。そういう中で、教材でより広く、そして、偏見や思い込みがなく、自分の観点で自由にということで推薦したので、その使いやすさということは皆さんのもっともなところがあります。これと少し違いますが、青少年というのは自分でいろいろなことがあって、喜びがあって、悩みがあって、挫折があって、希望があって、裏切りがあって、友情があって、これはやはり道徳の教材だけの問題ではありません。今はは

やらなくなりましたが、教養小説というのがありまして、ドイツ語でビルドゥングスロマンという言い方をしていますが、青少年が悩みながら大人になって成長していく。例えばヘルマン・ヘッセの小説「車輪の下」とかりルケの「マルテの手記」、ゲーテの「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代」とか、それから戦前から旧制中学・高校の教養になっていて、山本有三の「路傍の石」ですね。それから、「次郎物語」というのも時代が古くて、全然知らない方もいらっしゃるかもしれませんが、これも成長の物語。吉野源三郎の「君たちはどう生きるか」、私も半世紀ぶりにまた読み直しましたが、今読み返しても覚えています。道徳で全部教材にすることは無理ですが、やはり1冊の本を読むことを道徳、そのほかの教科でも進めていただきたいなと思います。すみません、演説をしてしまいまして失礼いたしました。

**教育長** 今、坂根委員が言われたことは、出典につながっていくということになるわけですね。

**坂根委員** はい。

**教育長** 今、出典の話がありましたが、自分が更に読みたいという話になったときに、今、どの教科書というのはまだ決まっていますが、もしそれが探しにくいようなことであれば、教育委員会で一覧を作って学校に配布して、例えば紙一枚だとなくしてしまうかもしれないので、教室の後ろに貼るような工夫はしたいと思います。今ご指摘の点は非常に重要ですので、対応していきたいと思います。そのほかの点で何かありますか。

**浅松委員** 今まで道徳の時間でも、基本的に教材を読んで、そこで主人公の心情などを読み取って、そしてそれをワークシート等に書き写して大体時間が来てしまうというように、下手しますと、教材解釈だけで終わっているところから、今回は教科化によって一人一人考えて話し合う。中学生となりますと、自我にも目覚め、そして将来の希望なども心の中に描くときに、当然30人、40人いる中でそれぞれの事象に対する考え方、見つけ方が違ってくると思います。それを指導者が、いかに話し合いまで発展させ、そしてお互いに他人の考えを聞きながら、道徳価値に気づき、更にそれを伸ばすところまで持っていか。私が引っかかっているのは、道徳は教科となったので評価をせざるを得ないことです。ただ、自己評価があるからそれを教師の評価活動に流用するということは間違っており、自分の成長を振り返り、どれだけ君は気づいたね、でも、こういうところだねという、記述文章の評価になっていくと思いますが、授業デザインを精力的にやっている学校、あるいはご自身が道徳の研究をされている方は、たくさん情報を持

ちながらやっていらっしゃると思いますが、ぜひ教科書の採択後に、授業の指導について若手教員も、また、今までの道徳の時間の経験値で指導してしまうところもありますのでベテランにも、研修はとても必要なことだと思います。

**坂根委員** 私が足りないところをよく指摘してくださってありがとうございます。ただ、おっしゃるように、現場を見ていて、評価は、評価する立場になると大変だと考え、一方、私は非常に楽天的に考えるところがありまして、この評価というのは、今までのほかの科目の評価、数値的な評価、試験をするわけで、逆に言うと、その生徒の成長に合わせて、良いところが見つけれられるとも考えるわけです。指導室長も2点目に評価について話していましたが、その意味では、若い教員だから、新しい発想で良い評価ができるかもしれないとも期待しております。

**教育長** 指導室長から、道徳を教科化するに当たっての教員の研修等について説明してください。

**指導室長** 道徳の研修につきましては、これまでも各学校で道徳教育の推進教室を設けていまして、それらの集合研修で最新の情報等を伝達して、各学校に持ち帰って校内に広めてもらう形で行っております。今回の道徳教科化を踏まえて、既にこれまでの研修会でも、新しい道徳における評価の内容について専門的な指導を受けております。その中で、教員にも教科化に対する不安はありますが、個人の成長を認める評価という点で、道徳性を一つに評価するものではないということは十分理解が進んでいると考えています。引き続き道徳の研修会をこれまで以上に充実して、指導法と合わせて評価についても研修を行っていきます。

**坂根委員** 研修がよくなされているようですが、教材の中で全社に取り上げられている「足袋の季節」と「二通の手紙」という二つについてその研修をよく見ましたが、疑問に思ったのが、「足袋の季節」の中江良夫さんという方、劇作家らしいですが、簡単に内容を申し上げますと、少年の頃、貧しさで足袋も買えなかった。大正の終わりごろの話です。おばあさんから釣り銭をごまかして足袋の代金にした、このことが心に残る。就職して、果物かごを持っておばあさんを訪ねるが、既におばあさんは亡くなっていたという話で、どこの出版社も、心の葛藤を中心に心情を酌み取るという形で、おばあさんの死で無性に自分に腹が立ったのはなぜかとか、死というものを絶対に感じたわけ、私が腹が立ったのはなぜかと、こういうものがほとんどですが、私は、釣り銭をごまかしたことという問題ではないと最初に思いました。そういうことに関して、どこの教材

研究にもない。ただ、佐賀教育センター（佐賀県教育委員会）の研究で、おばあさんは気づいていた、私の行いは悪いことだ、自分が私の立場だったらおばあさんに正直に間違いを言いますか、こういうのがありました。これを見てちょっとほっとしまして、先ほど浅松委員もおっしゃいましたが、発問の仕方によっては心情的な解釈に向かってしまう。これは今までのことですから、これから教科になった場合には、その辺を非常に注意しなければと思っています。学研教育みらいは、この2年の124ページに「足袋の季節」があります。その前の88ページ、「星置の瀧」というのが同じ作者だったと後で見てわかりましたが、これは、自分が給仕をしていて、食うのもようやくという暮らしの中で育ったせいか、卑屈で素直さのない、人は人、俺は俺、頼るのは自分しかないという態度を常に見せて、人間的に付き合って損か得かというのを書いているのを見まして、先ほどの疑問が、本人も自覚しているのかなと思いつつ見ましたが、そういう意味で出典があって、関連したものがあるとまた違う評価が出てくるのではないかという感じました。

**阿部委員** 自分が中学生の頃を思い出しますと、子どもからだんだん大人に成長していく過程の、いろいろ悩んだりする思春期ですよ。そうすると、だんだん大人の考え方とか大人の社会のルールなどについての知識をつけたり、あるいは自分の今までの子どもの考えを修正されたりと、そういう時期になるので、できれば、いきなり哲学的なことを、あるいは高尚な議論を上から与えるのではなくて、子どもたちがそういうことに興味を持ったり興味を持ったりするきっかけなりヒントになればよいと思います。すぐにわからなくても、何年かしてもう少し成長してから書いてあることの意味がわかってよいと思います。そういう意味では、難しい議論より、割ととっつきやすく、とにかく興味を持たせることが一番じゃないかと。そういう観点で東京書籍を私は最終的には推しました。

**雁部委員** 今、阿部委員がおっしゃったのはごもっともだと思います。道徳だけではなくほかの教科もそうですが、まず、導入で子どもたちが教科書を開いた時点で何か期待できるものがあれば、よし勉強するぞという気になりますが、そうじゃないと、そこで終わってしまいます。その点、東京書籍はテーマがはっきりしていますし、教育出版も年間の目的がはっきりしている。ですから、そういうことをはっきりさせた上で子どもたちと一緒に先生も学んでいくという姿勢が大事だと思います。それから、先ほど浅松委員、坂根委員も、教科書だけではなくて教え方もそうですが、ここは子どもと一緒に

学んでいくという姿勢が一番大事なのではと思います。

**教育長** 発問について、先ほどお話ししたように、1問の発問でいろいろな角度が出てきますので、それはそれですごくよいと思いますが、しかし1問を与えたときに、子どもたちが深まっていくかというのがやはり一番懸念するところです。それで、その都度誘導していかないと、少し言い方は悪いですが、議論が思いつきのようになって、深まりがないのかなと。そうすると、教師が誘導しないと難しくなってくる。ほかの教科書も内容はきちんとしているし、それぞれ魅力があります。ただ、私が東京書籍を推したのは、阿部委員がおっしゃったようにオーソドックスであること、それから、いじめのところは質問が多くなっていますけれども、他のところは基本的には大体2問で、主人公、作者の心情がどうだったのか、それから自分と置き換えたらどうだろうかと、深める内容がきちんと示されていることで、考えを深めることができるのではないかと。そして教科化にあたり、以前よりも重みが増したわけですが、子どもたちのいわゆる知・徳・体の徳が伸びていく栄養分になっていくので、方向性が示してあるものでやった方が、子どもたちの議論が深まるのではないかと。そして、すぐに役に立つわけではないかもしれませんが、普段の生活や学校生活で、あるいは生き方に活用できるものとか、心を強くして生きていくとか、そういったものが期待され、さらに、出典についてもしっかりすれば、こういうのがあったなと思いつつ読み返す。その本を読むことでより充実させることができると思います。そういった点では、私はやはり東京書籍の発問の仕方がよいと思います。学研教育みらいも含め、題材については、どれも本当に良い材料が使われているなと思いますが、今申し上げたこの授業の目的の点では、やはり東京書籍が1番になります。では、時間もあるので、何かほかにありますか。

**坂根委員** かなり時間をかけてほかの教科書も読みましたので、なかなか捨てがたい教材もあります。例えば日本文教出版、2分冊ということはありますが、男女共同参画とか3年ではジェンダーということも書いてあります。私一番気に入ったのは「ブッタとシッタカブッタ」、これは漫画で、道徳ではなくて外国語教材で使いましたが、非常に人気がありました。廣済堂あかつきは、出典はかなり良いものがありました。これは普通の3年生の15項目でしたか、電車の中で普通のおじいさん、おばあさんということもあるし、席を譲られた人が高橋健二さんというドイツ文学者で、そのことを書いているのは吉村昭さん、これも作家です。その態度が非常にスマートだった。これは譲られる大人も魅力的という、中学生にはこういう視点も欲しいなと思っております。日本教



科書は1年ですか、誰かのためにということで緩和ケアのことも書いてありました。学校図書は大変丁寧に文章を選んでいるのが魅力的です。学校図書はLGBTのことも、カミングアウトした当事者を紹介しています。良い視点だと思います。

**教育長** 今、坂根委員から第1順位、第2順位で選んだもの以外の教科書についてお話がありました。委員の方で何かありますか。

**浅松委員** 教材ということ言うならば、私も各社読んでみたのですが、またいじめの話に戻りますが、教育出版の72ページにあります「卒業文集最後の2行」のところ、これは、さっき坂根委員もおっしゃったように、教室の中のいじめだけ、学校現場という舞台にしてというお話をされましたけれども、ストーリー的、時代的にどうかという面はありますが、いじめの根幹というか差別、異質なものを責め立てて排除するという意識や考えを中学時代あるいは小学校、子どもの頃からきちんと押さえていくということであると、私は教材としては適切かなと思いました。それが、知・徳・体の先ほど教育長がおっしゃった徳のない大人になっていくと、とんでもない問題が起きてくるわけで、この「卒業文集最後の2行」というのは、いじめに関わる教材の中でも非常にインパクトが強かった一つです。

**教育長** ほかにありますか。

**阿部委員** 個々に話し出すと時間がなくなってしまうので。

**教育長** 雁部委員はよろしいですか。

**雁部委員** はい。

**教育長** では、委員の皆さんからご意見をいただいて検討してまいりましたが、東京書籍を第1順位にした方が3名、第2順位が1人と多く、だんだん時間も迫ってきますのでまとめたいと思います。さまざまな視点で教科書の議論をして、教育委員会としては、「特別の教科 道徳」の教科用図書については、東京書籍の「新しい道徳」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** それでは、議案第29号、「特別の教科 道徳」は東京書籍の「新しい道徳」を採択することにします。

## 議決事項第 2・・・資料 P 3～4

議案第 30 号「平成 31 年度使用小学校教科用図書採択について」を上程し、指導室が資料のとおり説明する。

**教育長** それでは、審議に入る前に、これまでの経過等について確認させていただきます。平成 29 年 10 月 13 日付け、文部科学省初等中等教育局教科書課からの事務連絡により、平成 31 年度使用小学校用教科書の採択については、平成 29 年度検定において新たな図書の申請がなかったため、基本的には前回の平成 25 年度検定合格教科書等の中から採択を行うこととしています。また、採択においては、現在使用している教科用図書の 4 年間の使用実績を踏まえつつ、平成 26 年度採択における調査研究の内容等を活用することも考えられるとしています。このことを踏まえ、墨田区立小中学校教科用図書採択事務取扱要綱に基づき、教科用図書調査委員会の報告を前回の採択時に行った報告をもって変えることとし、同様に、教科用図書採択検討委員会の報告も前回の採択時に行った報告をもって替えることとしました。また、6 月 15 日から 7 月 3 日までの間、ひきふね図書館内に教科用図書を展示し、ご来場された区民の方々からご意見をいただきました。6 月 5 日から 6 月 26 日までの間には、学校の教員向けに教科用図書の展示会場を複数設けて展示し、学校ごとの意見を集約し、調査報告を受けました。さらに、委員の皆さんには、7 月 31 日までの間、全ての教科用図書を実際に手にして教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民の方々からの意見、教科用図書採択検討委員会報告書等にも目を通していただきながら、教科用図書の細部にわたり検討していただいたところです。本日も会場に教科用図書を用意しておりますので、必要に応じてご確認いただきながら審議をお願いします。審議の順序は、国語から順に 9 教科 11 種について審議します。なお、各教科の審議の冒頭に、学習指導要領に定める教科ごとの目標等について指導室長から説明をします。また、時間の都合上、採択の審議中、事務局側で教科用図書の入れ換えを順次行っていきますので、あらかじめご了承ください。それでは、国語を審議します。

**指導室長** 国語科の目標は「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てる。」となっています。なお、新学習指導要領では、目標及び内容の構成において、国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表

現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理しています。この三つの柱に整理されたことについては、全教科に当てはまります。現在使用している教科用図書は「教育出版株式会社」です。「分かりやすい例示をした上で学習スキルを身に付けさせる系統だった内容が示されている」「学習のねらいが的確・丁寧に示されている」「脚注の扱いが適切」「バランスがとれていて、名文を楽しむ以外に表現することや様々な発表、コミュニケーション能力を高めることに優れている」等の理由で採択されています。なお、学校からは「単元のねらいが教材冒頭に書かれていて児童に分かりやすい」という意見がある一方で「物語文等の内容が児童にとってやや難しい」という意見もあります。発行者は5社です。

**教育長** ご意見はありますか。

**坂根委員** 大分前に採択したので、採択時のことは忘れていることも多いですが、一つ、現在使われている教育出版の5年生の下の96ページ、97ページ、これは資料を工夫して効果的に発表しようということですが、これで97ページに発表の構成表というのができています。資料があって、時間まで書いてあります。これは5年生にしてはかなり高度だということが決め手になった一つだと思いますが、現在、墨田区はICT機器が全校に配置されまして、そして、ある小学校では、1年からプレゼンテーションを行っている。プレゼンテーション用のソフトがあり、5年生ならもちろん、1年生でもできるようになったのは喜ばしいことだと思っております。それから、百人一首も全部とられているということで、各学校でも大会が行われるなど、その効果があったのかなと考えております。

**教育長** 坂根委員から、学校によって効果があらわれているということですが、ほかにご意見ありますか。

**雁部委員** 同じく教育出版の3年の下の86ページ、前回も同じ特徴を申し上げましたが、町の行事について調べようということで、今、学校行事は地域とともにいろいろな行事を行ったりしております、子どもの教育という点で、学校だけではなく地域の協力を得て活動するという内容を教科書に載せているのはとても良いことだと思います。地域との関連というのは、防災教育もそうですが、学校の周りの危険な箇所を地図にして学校の廊下に貼ったりしていますので、そういうことを取り上げて教科書に載せるのは、それなりの効果があるのかなと思いました。

**教育長** ただいま効果があるという意見がありました。国語の教科用図書については、

現在使用している「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** では、そのとおり決定します。次に、書写を審議します。

**指導室長** 書写の指導事項は、姿勢、用具、筆順に関する事、字形に関する事、点画の書き方、字形の整え方、字の大きさ、字配りなどから構成されています。毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を整えて書くことができるようにするとともに、各学年30時間程度を配当することとされております。現在使用している教科用図書は「光村図書出版株式会社」です。「毛筆と硬筆教材のバランスが良い」「基本姿勢や筆の持ち方等の説明が丁寧で分かりやすい」「机上での取り扱いが適切な大きさである」等の理由で採択されています。なお、学校からは「学習の見通しが持ちやすく単元の系統性が分かりやすい」「説明が丁寧で分かりやすい」という意見がある一方で「国語と書写の発行者が異なるため関連指導がしにくい」という意見もあります。発行者は6社です。

**教育長** ご意見はありますか。

**坂根委員** 書写を選ぶに当たって、先ほど、道徳の時に雁部委員からも出ましたが、書写の光村図書は、表紙が地味ですが、書写というのは、私はあんまり派手にする必要がなく、図画工作とは違いますので、落ち着いて勉強ができるようにと考えていますけれども、非常に持ちやすいですとか、姿勢のことは大分申し上げていますから、それがそういう結果であれば嬉しいことだと思います。

**阿部委員** 国語の教科書と書写の発行者が違うと使いづらいという現場の意見があったということですが、それは何か問題あるのですか。

**指導室長** 国語の関連指導という内容で、字の形を整えて書くということが書写ですが、国語の授業の一環として行っていますので、教科書会社が同様の方が、字の扱いが国語の教科書と同等に進んでいくという点では関連づけはありますが、ただ、それぞれの国語科で行う学習内容に大きな違いはありませんので、そういう点では克服できないものではないと考えております。

**坂根委員** 今の指導室長の話で確認したいのですが、学年ごとに新出漢字というのは決まっていますから、別に教科書が違っていてもそこは問題ありませんね。

**指導室長** はい、問題ありません。

**浅松委員** 阿部委員の質問と同じですが、国語の教科書会社と違うことで指摘された教員の数は多いのですか。子どもの使いやすさというのは、教師側の指導等もあるのでしょうか。

**指導室長** 関連指導という点で、国語科の教科書発行者と異なることの指摘があったのは、全25校のうちの2校です。

**教育長** それでは、書写の教科用図書については、現在使用している「光村図書出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** それでは、そのとおり決定します。次に、社会を審議します。

**指導室長** 社会科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」となっています。現在使用している教科用図書は「教育出版株式会社」です。「勝海舟、葛飾北斎、相撲、花火、スカイツリーをはじめ、歴史や文化などについて墨田区にゆかりのある内容が記載されている」「領海と領土問題について、詳しく説明している」等の理由で採択されています。学校からは「戦争時の両国周辺の地図が大きく載っており、児童にとって身近な地域が大きな被害を受けたことがよく分かる」という意見がある一方で「歴史の単元では、時代間のつながりが分かりにくい」という意見もあります。発行者は4社です。

**教育長** ご意見はありますか。

**雁部委員** 社会については、教育出版、6年の下の128ページ以降、戦争の悲惨さを写真で明確に伝えているというところ、特にB-29の爆撃している様子はほかの教科書にも載っておらず、こうしたことは子どもたちにしっかり伝えていかなければならないので、この本はかなりよいと思います。

**坂根委員** 社会の3・4年の上の126ページ、調べたことを記録しよう。これにデジタルカメラの使い方というのがありますが、既にデジタルカメラではなくてもう変わってしまっている。それから、その前の122～123ページ、電話のかけ方。電話も随分変わっているなど、この間に情報機器の進歩というのを改めて感じました。

**浅松委員** ついこの間、私も小学校の公開授業に行ったときに、教育出版の社会科6年の上54ページと55ページの、長篠の合戦を取り上げていました。中学校の場合もそうでしょうけれども、社会科には資料集があります。教科書の合戦図、それから資料集

の合戦図、いろいろ見比べ、全員で情報を共有するという点でICTの活用はなくてはならないと思います。墨田区にはICTで実写投影してプロジェクターから映し出すこともできますが、私が見た授業でも実際にICTを活用していました。教科書にはこういう図版、絵巻物も含めて合戦図等もたくさん書かれているものが多いですが、その分面積もすごく広い。この辺を今後工夫する必要があるかなと思います。

**教育長** 先ほど指導室長から、この教科書も学校からは評価されているということと、先ほど坂根委員が言われたように、時代の変化があるので、そのことについては指導室から、現在に合っているものを示すことをやっていただきたいと思います。それでは、社会の教科用図書は、現在使用している「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** それでは、そのとおり決定します。次に、地図を審議します。

**指導室長** 地図については、「児童が社会生活や我が国の国土に対する理解と自然災害の防止の重要性についての関心を深めることができるようにすること」「基礎的・基本的な知識・技能を活用し、学習問題を追究・解決することができるようにするために、各学年の実態に応じて地図などの基礎的資料を活用したり、社会的事象の意味や働きなどについて考え、表現したりする力を育てること」とあります。現在使用している教科用図書は「東京書籍株式会社」です。「図や索引などサイズが大きい」「災害マップ、世界遺産マップが載っている」という等の理由で採択されています。学校からは「巻末資料が豊富である」「文字の色など工夫があり見やすい」という意見がある一方で「サイズが大きく、扱いづらい」という意見もあります。発行者は2社です。

**教育長** ご意見はありますか。

**浅松委員** 私も地図は特に小学生には大きく見やすい方がよいと思います。地図の場合は、ICTの教材コンテンツ等も焦点化して写し出すことによって情報の共有はできますので、地図がかさばるとは言っても、この大きさは適切かなと思っています。

**雁部委員** 今、浅松委員がおっしゃったとおりです。帝国書院の方は、昔からですが、少々黄色みが強く、恐らく蛍光灯あるいは光の反射率が東京書籍よりも強いので、学校での場所によっては見づらいこともあるのかなと思います。なので、東京書籍の方がよいと思います。

**坂根委員** 前も話題になったと思うのですが、帝国書院の29ページ、京都の盆地の、

よくこうやって見っていますが、修学院離宮、「しゅがくいん」、これはそのまま「しゅうがくいん」ということで結構なのでしょうか。「しゅがくいん」じゃなくて「しゅうがくいん」。

**指導室長** 帝国書院から今回改訂・修正という連絡は入っておりません。

**坂根委員** 入っていないですか。話題になっていますよね。読み方で、一般的に「しゅがくいん」という言い方をします。ただ、地名を現場でどう読むかは、現地で様々だと思えますので、ちょっと気になりました。私が見たのでは「う」が入っていたと思います。

**教育長** 今現在使っているものではなくて、他の会社のものということによろしいですか。

**坂根委員** そうです。今は使っていません。

**教育長** この地図の教科用図書も、学校からの評価も高いということで、現在使用している「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** では、そのとおり決定します。次に、算数を審議します。

**指導室長** 算数の目標は、「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち、筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的処理の良さに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を養う」となっています。現在使用している教科用図書は「日本文教出版株式会社」です。「教科書の端に帯があり、予想される児童の疑問についてのヒント等が書かれている」「説明が分かりやすく算数が不得意な子供に対しても、配慮されている」等の理由で採択されています。学校からは「計算の式の筆算に入る前に丁寧に考えさせており、他の教科書より1時間ほど多い」「巻末に算数に興味をもつ子供が意欲的に復習したり、学んだりできるような教材が掲載されている」という意見がある一方で「単元末にある算数的活動が扱いづらい」という意見もあります。発行者は6社です。

**教育長** ご意見はありますか。

**浅松委員** 今、指導室長からも説明がありましたが、算数は少人数習熟度個別学習を行っていて、現場授業を視察した時には、2学級なら3分割という形で全部見っていますが、算数が不得意な児童に対して、もちろん教科書だけで全て理解させるのは難しいと思います。表題コンテンツ等も使いながら、どの学校も非常に熱心に指導しています。そう

という意味では、他の教科に比べて算数は教科書を開くことが多いと思いますし、実際、教科書の練習問題も含めてわかりやすいほどよいかと思います。実際、日本文教出版の算数の教科書は使いやすいと思います。

**教育長** ほかにありますか。浅松委員から習熟度別授業についてありましたが、この教科書は、解き方についても、一つではなくいろいろな解き方ができるように配慮されているので、発展的な学習としても使いやすいと考えます。

**坂根委員** 日本文教出版の3年の上の50ページ、時刻や時間の求め方、次の問題を読んで、時刻を守るにはどうすればよいか調べましょうということで、時刻表があり、これは意見を申し上げましたが、「時刻を守る」という言い方、「時間を守る」という言い方でないのは、時刻表があるから、時刻を守るという言い方をしているのですが、現場でこの使い方について意見は出ているのですか。時間を守りましょうという言い方は普通ですが、時刻を守る。

**指導室長** 言葉の使い方についての学校意見はありませんでした。この算数においての「時刻」と「時間」ということで見ますと、「時刻」が限られた一定の時間で、「時間」というのが長さというところで使い分けをしておりますので、子どもたちには、「時刻を守る」という言い方をした方が、その決められた刻限を守るという点で理解がしっかりできると考えられます。

**坂根委員** それは導入の時点ですよ、3年の。それがずっとそのままいくわけですか。

**指導室長** 基本的には、算数においてはそのように扱うという形です。

**坂根委員** 6年生までですか。でも、一般的には、時刻を守りましょうとは言いませんね。

**指導室長** 小学校においては、教科で使用した用語を使っていくということで、集合時刻を守るとか、移動教室等、遠足などでも「時刻」という言い方は多く使っています。

**坂根委員** わかりました。

**雁部委員** 同じく3年の上の22ページ、なるほど算数というところで、昔の九九というのがありまして、ここで一番注目したいのは、昔の九九を書いた写真が載っていて、間違えている。算数というのは間違っただけではないのではなくて、間違えたら直すというのが根本です。だから、こういうことを教えているのは他の教科書はないので、すごくすばらしいと思います。

**教育長** では、学校からも評価が高いということと、特に積極的にという方もいらっしゃる



やいましたので、現在使用中の「日本文教出版株式会社」を採択したいと思いますが、ご異議はありますか。

（「異議なし」の声あり）

**教育長** それでは、そのとおり決定します。次に、理科を審議します。

**指導室長** 理科の目標は、「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う」となっています。現在使用している教科用図書は「教育出版株式会社」です。「問題提示をして、一連の学習過程の中で予想や考察を促している」「実験器具の安全な使い方が詳しく書いてある」等の理由で採択されています。学校からは「資料も多く、扱いやすい」「学習問題や予想を立てる際に手立てとなるイラストが多い」という意見がある一方で「学習の流れが、児童の思考の流れに合っていない、そのため授業の際に使用しづらい」という意見もあります。発行者は5社です。

**教育長** ご意見はありますか。

**阿部委員** 以前から墨田区の子どもは、理科に関して成績が他の科目に比べて伸び悩んでいると伺っていますが、教科書がどうのこうのということは別にしまして、現場の教科書が難しいとか使いづらいとか、場合によってはもう少し平易なものを選ぶ余地があるとか、そういう意見は出ていないのでしょうか。

**教育長** その件については私から。教科書については、基本的には難しいとかはありませんが、今年の区の学力調査では、理科も算数と同じように積み上げの部分が多いので、4学年のうち3学年は成績優良になっているということがありまして、今後、すみだ教育研究所で検討・分析していきます。理解するところまではいきますが、その後のアウトプットや定着について、これが一番の問題であるということで、今、すみだ教育研究所でやっていますが、特に教科書の内容が難し過ぎるというような分析はしていません。ですので、内容的にはこれでよいと思います。私も教科書をいろいろな点で見ましたが、特に使いにくいということはないと思います。

**阿部委員** わかりました。

**坂根委員** 私も直接教科書についてではないのですが、今使われている教育出版の4年の42ページ、43ページ、電気の働きというところで、モーターカーというのですか、プロペラカーというのですか。これを組み立てて作るのですね。私はこれ作っていると

ころを公開授業へ参加しまして、とてもよくできていますが、説明書がすごく難しいのです。かなり力のある主幹教諭で、更に介助の人も入っていましたが、それでもその時間に終わるかどうかということでした。もちろん子ども用ですから説明も子ども用にはしてありますが、振り仮名を振っていませんし、わからない子もいるかもしれません。そういう意味で、扱いについて学校で意見は出ていないでしょうか。

**指導室長** 教材会社が作成した教材の説明指導について、特に指導室に意見が寄せられているということはありません。ただ、限られたスペースに全ての説明を詰め込むという点で十分な配慮がないものもあるかなというところがあります。それから、設計図を見て組み立てるといった経験が子どもの頃にまだ十分でないということも考えられますので、教材を選ぶ際、あるいは実際に指導する際にも、子どもたちがつまづくことを予想してわかりやすい手立てをとるようにと学校には話しています。

**坂根委員** 私が公開授業に参加した学校の校長、副校長は、よくわかりましたと、そういうことでやはり振り仮名などについて考えますということを書いていらしたので、それから作る前に実際にやってみるとか、時間配分とか、そういうことも考えながら進めていくことが望ましいのではないかと思います。

**浅松委員** 現場で理科の授業を見た後に、新規採用の若い教員と話す機会があるのですが、全教科に時間をかけ、子どもの安全確保、事故防止という点でも非常に気を使うわけです。なかなか全体の児童に目が行き届かないというところで、危険な部分も見ていてありました。先ほど指導室長の話にもありましたが、教師用の指導書を読み込んで、例えば予備実験を行う。中学校の教員ですと、結構手際よくできるのですが、小学校、特に教員になりたての人ですと、知識理解として演習で定着させるところまでなかなか行き着かないところに学力の面での課題もあるのかなと思っています。若い教員についてどうでしょうか。

**指導室長** 理科の実験の指導については、夏季休業中の理科部の教員を講師としまして、理科の実技研修会を開催しております。それ以外にも、各学校で理科整備とか教材整備も含めて中心的な人を設けて整理を進めるようお願いしております。指導主事が学校訪問等を行ったときには、そのような理科の授業が安全・適切に行えるようなところで研究指導をしております。

**教育長** 今、浅松委員が言われたのは、結局、小学校の教員は中学校と違って教科の専門ではないので、準備の時間がなかなか難しいというのが実態としてあります。それで、

現在、指導室では教員の授業力ということで指導力を高める研修をやっております。一方で、すみだ教育研究所では、教え方のポイントについて、教員たちが事前の予習をするときに役立つものとして社会と理科のポイント集を学校で配っています。ただ、これは徐々に作っていくので、まだ全部できておりませんが、その辺について社会、理科について学校で支援するという状況です。

**雁部委員** 教科書の内容ですが、前回、採択のときにも言いましたが、実験というのは、やって初めて結果が出て、どうなるのかなという、ある意味楽しみもあるわけですよね。ところが、教育出版は1枚めくると答えが出ちゃっているのです。だから、その答えというのは巻末に持ってくるとか、何かその辺の工夫はして欲しかったなというのは思いました。

**教育長** 実験については、結果が出ているのと、あとでまとめとしてやっていくというのがありますが、今回、教育出版では四季、春、夏、秋、冬にわたっていますので、子どもたちが授業の進度に合わせて季節があって、そうしたメリットもかなり高く、学校の教員の意見でも、実験器具の安全な使い方が詳しく書いてあるとか、実験についてはかなり丁寧に書いてあり、教科書の後ろを開かせるかどうかというのは教員の授業の指導の中での話になりますので、その点も含めて指導室長に検証をお願いしたいと思います。それでは、理科の教科用図書については、現在使用している「教育出版株式会社」を採択することにしたいと思います。ご異議はありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** それでは、そのとおり決定します。次に、生活を審議します。

**指導室長** 生活の目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」となっております。現在使用している教科用図書は「学校図書株式会社」です。「1年のはじめに学校生活の1日の流れを提示し、他教科の活動等が児童に分かりやすく示している点で優れている」「生命の大切さに気付かせるのに、よく考えられている」等の理由で採択されています。学校からは「安全のページなど実生活に生かせるページがたくさんある」「単元ごとのもの知りノートがあり、興味のもてる資料となっている」という意見がありました。特に、課題についての意見はありませんでした。発行者は7社です。

**教育長** ご意見はありますか。

**坂根委員** まず、学校生活の流れが書いてあるということで、学校探検。実際に学校公開に行きますと、本当に子どもたちがよく学校探検をしまして、上級生、もう2年生になったら指導しながら探検している様子がよく表れています。それと、私の朝顔ですが、朝顔は観察がきちんとなされていて、まず、芽が出て、それから葉っぱが出て、それから花が咲いて。先生がまず、気がついたこと、わかったことを書かせる。そして、気持ちを書く、私は大学で文書指導もしていますが、事実と意見を分けて書くのは基本です。それが1年生できちんとできています。もちろん1年生ですから、字がわからないなどはありませんが、そこがきちんできていて感動するようです。それから、朝顔に名前をつけたりとか、2年生ですからトマトも作って、それに名前をつけたりする学校もあります。その朝顔を育てて持って帰って、最終的に枯れたものを今度は図画工作でクリスマスリースの形にする。エコというか全部利用しているという点で、私はよい教材だと思いますし、それ以上に学校が活用しているということを嬉しく思います。

**教育長** 学校からも評価されております。また、坂根委員のお話でも、教科書が有効に使われているということで、現在使用している「学校図書株式会社」を採択することにしたと思いますが、ご異議はありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** それでは、そのとおり決定します。次に、音楽を審議します。

**指導室長** 音楽の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」となっています。現在使用している教科用図書は「株式会社教育芸術社」です。

「墨田区が愛唱歌としている滝廉太郎作曲『花』が掲載されている」「技能面で扱いやすい楽曲や音楽で構成されており、児童にとって歌いやすい楽曲が掲載されている」等の理由で採択されています。学校からは「歌詞のイメージを膨らませる写真、楽器や演奏している写真などが学習をサポートしている」「教材の隅に共通事項が記載されているのがよい」という意見がある一方で「音楽づくりの扱いが少ない」という意見がありました。発行者は2社です。

**教育長** 先ほど意見の中で、音楽作りの扱いが少ないという意見がありましたが、指導室としてはいかがですか。

**指導室長** 音楽作りについては、音楽の表現の内容、歌唱、器楽と、もう一つが音楽づくりとなっております。ただ、音楽作りの活動は、子どもたちが普段なれ親しんだ楽器

や、あるいは歌を使って興味深い音楽を作っていくことですので、教科書に必ずしも例示がなくても、さまざまな場面で行える活動だと思います。教科書への記載が少ないということでは、大きな影響は与えないと考えております。

**教育長** 使っている教員からは、評価が高く、音楽作りの扱いが少ないということもありましたが、指導室長から話があったように、これだけ他の場面でも行えるということですので、現在使用している「株式会社教育芸術社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議はありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** では、そのとおり決定します。次に、図画工作を審議します。

**指導室長** 図画工作の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」となっています。現在使用している教科用図書は「開隆堂出版株式会社」です。「葛飾北斎の絵が掲載されている」「道具の使い方が分かりやすい」等の理由で採択されています。学校からは「目次に用具と材料が示されていて扱いやすい」「参考作品が多く載っているのだから分かりやすい」という意見がある一方で「題材の自由度が高いと扱いづらい」という意見がありました。発行者は2社です。

**教育長** ご意見はありますか。

**浅松委員** 今、指導室長が最後の部分でおっしゃった、参考作品が多く載っているのだから分かりやすい。一方で、題材の自由度が高く、少し扱いづらいところをもう少し説明してください。

**指導室長** 普段の作品については、子どもの創造性を育てるために、こういう形のものを作るという示し方ではなく、この材料を使って何かをしていくというような示し方の例がたくさんあります。その点では、さまざまな発想を引き出せる教員、さまざまな教材の経験がある教員については、子どもたちの力を発揮させやすい、教科への適用を達成しやすいという面がある一方で、仕組みとかそういう形でどのように作らせていったらよいか分かりづらいというような点で、扱いづらいという考え方があるのかと思います。

**坂根委員** 昨年、柳島小学校の110周年記念のときに、体育館に有名な、例えばゴッホの夜のカフェテラスなどを使って、コラージュにして、その中でモネとかゴッホとか有名な画家が多かったのですが、余り一般的には知られていないジョージア・オキーフ

という前衛の画家も扱っていて、そういうものをうまく使って利用できて大変感動しましたので、そういう扱いも必要だったかなと思っております。

**教育長** では、学校からの評価も高いということで、図画工作の教科用図書については、現在使用している「開隆堂出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議はありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** それでは、そのとおり決定します。次に、家庭科を審議します。

**指導室長** 家庭の目標は、「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切に  
する心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる」となっています。現在使用している教科用図書は「開隆堂出版株式会社」です。  
「学ぶ目的や内容が明確である」「食物アレルギーについて取り上げている」等の理由で採択されています。学校からは「分量が適量で、写真や挿絵がわかりやすい」「材料が児童の興味をひくものとなっている」という意見がありました。特に、課題についての意見はありませんでした。発行者は2社です。

**教育長** ご意見はありますか。

**坂根委員** 開隆堂の88ページ、楽しくソーイングで、ミシンの扱いですが、ミシンは少ししか出ていませんが、現在、墨田区はICT機器を非常に使いこなしているということで、例えば画面を大きくするといった、ICT機器を有効に使えるような教材でやっているということはすばらしいと思います。これからまたこの使い方がどんどん変わってきますし、そういう意味では新しい使い方が各学校で出てきたら、それもぜひ共有していただきたいと考えています。

**教育長** 研修会などで話すことがあると思うので、共有していきたいと思います。

**坂根委員** 現場からどうですか、そういう機器を使うにあたり使いやすいとか、そういう意見はありますか。

**指導室長** 家庭科に限らず実技系の教科においては、手順や作業を示す際には、教員の手元を拡大表示するという形で使ったり、あるいは教材としての動画を活用したりということで、ICT教材の活用が児童の理解を深めるのに大変有効であるというようなことは学校から聞いております。

**教育長** それでは、これも現場の教員からは評価されているということですので、現在

使用している「開隆堂出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議はありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** では、そのとおり決定します。次に、保健を審議します。

**指導室長** 体育の目標は、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」ことです。保健領域におきましては、健康な生活、身体の発育・発達、けがの防止、心の健康及び病気の予防についての基礎的・基本的内容を理解し、児童自らが課題を発見し、解決する過程を通して、健康安全の大切さに気付くことができるようにすることを重視しています。現在使用している教科用図書は「株式会社学研教育みらい」です。「がん、飲酒、薬物乱用について詳しく説明されている」、「写真がきれいで分かりやすい」等の理由で採択されています。学校からは「数年間の教材研究がなされているので、継続した方が授業力の向上につながる」、「家庭や地域との連携が手厚い」という意見がある一方で「写真がもう少し掲載されているとよい」という意見があります。発行者は5社です。

**教育長** ご意見はありますか。

**雁部委員** 5・6年生の26ページ、けがの手当てという項目ですが、27ページの最後、熱中症が今問題になっていますけれども、手当ての仕方が出ている、これは非常によいと思います。

**坂根委員** 今、雁部委員のおっしゃった26ページ、27ページ、けがの手当ての一番下、消毒は傷口については細菌を殺すためです。体に備わっている傷を治そうとする働き、自然治癒力によって治るのです。消毒しない手当ての仕方もあります。この辺は実際に行っているのですか。

**指導室長** けがについては消毒をして絆創膏等で被覆するよりも、そのままにした方が早く治ることもあります。ただ、活動量の多い子どもたちについては、けがの部分そのままにしておきますと、更にそこをぶつけて悪化させるというようなこともありますので、あくまでもそういう手当てもあると子どもに理解はさせておりますが、基本的には、集団生活の中ですので、血が他者に触れたりすることのないように、学校ではけがの手当てを行っています。

**教育長** では、先ほど指導室長からありましたように、教員からも評価をされておりますので、現在使用の「株式会社学研教育みらい」を採択することにしたいと思いますが、ご異議はありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** それでは、そのとおり決定することにします。以上で、平成31年度使用小学校教科用図書採択については全て終了しました。

### 議決事項第3・・・資料P5～6

議案第31号「特別支援学級用教科用図書採択について」を上程し、指導室長が資料のとおり説明する。

**教育長** では、ただいまの説明につきまして、何かご質疑ご意見はありますか。

**雁部委員** 一人一人の実態に応じた図書を使用するということですが、教科書自体の採択は担任の先生に任されているのですか。

**指導室長** 児童・生徒の実態に基づいて担任が選定し、学級である程度審議をした後で、学校長の申請が上がってくるという形をとっています。

**坂根委員** 一般図書を教科用図書として使用する場合、どういう図書をどのぐらいで、またその効果というようなこと、大体でよいので教えてください。

**指導室長** 一人一人の実態に応じた採択ですので、一概にどの程度の効果ということを検証する数値等は持っておりません。ただ、特別支援学級での実態を考えますと、言葉に親しむ、文字に親しむ段階では興味を引くような絵本を国語の教科書として使うという事例が見られ、子どもが興味を持って学習活動に取り組めるようにと考えています。

**教育長** それでは、平成31年度特別支援学級で使用する教科用図書は、児童・生徒の能力及び興味、関心等を考慮し、一人一人の実態に合った教科書を使用する趣旨から、文部科学省が著作の名義を有する教科用図書及び東京都教育委員会が発行する特別支援教育教科書調査研究資料に記載されている全ての一般図書を採択することにしたいと思いますが、ご異議はありますか。

(「異議なし」の声あり)

**教育長** それでは、議案第31号は、そのとおり採決することにします。以上で本日の議事は全て終了しました。これで教育委員会を閉会します。